

なんばから
電車であらり旅

帝塚山

古墳に伝説、蔵にチンチン電車。

なんばとは違う大阪文化が残る街。

上 町台地の西端に位置する帝塚山。この地には大伴金村が眠るといわれる帝塚山古墳、聖徳太子が魔物を鎮めたと伝わる万代池があり、いにしへの文化を今に伝えている。また古来外交の拠点であった住吉にも近く、貿易の要所と

聖徳太子が曼荼羅経をあげて魔物を鎮めた逸話から「まんだら池」と呼ばれ、それが転じて「万代池」になったという。



ACCESS 帝塚山へは…
南海高野線 なんば駅から車で約9分
阪堺電車上町線 天王寺駅から車で約10分



して栄えた。大正時代には船場商人の別荘が多く建ち並び、そうした人々の着物や生活用具を納めていた蔵が、今も街の風情を彩っている。そもそも上町台地は、かつて東西に海を臨み、なかでも西方は夕陽の美しさから西方浄土信仰ともつながったため、特別な場所として長く人々の憧れを集めた地。だからこそ帝塚山には、他にはない歴史文化が紡がれてきたといえるだろう。

阪堺電車が運営する、大阪唯一の路面電車が走る、のどかな街並み。



音楽祭で使われるYAMAHAオルガン第1号機は百年以上昔の名楽器。演奏させてもらうことも可能だ。



「蔵」のギャラリー
CLASSIC1010
住吉区帝塚山中4-10-14
☎06-6671-6749
🕒11:00~17:00
☎不特定



未来に対する思いが込められている。

佳き伝統を残すために作られた
蔵のギャラリーには、多くの人が集う。

現

在 帝塚山では蔵を使った新しい文化も生まれている。そのひとつがアートギャラリー「CLASSIC1010」だ。白塗りの壁と大きな松の木の柱。蔵が醸し出す伝統的なぬくもりをそのまま残すギャラリーでは、市松人



木々のぬくもりが伝わるギャラリーは人々のふれあいの場にもなっている。

あなたに居場所

なんば けしゅん nambacation

MAP
vol.4

アートを訪ねるなんば文化紀行。

大阪タカシマヤが入る南海ビルは
明治・大正・昭和と続いたなんば繁栄の記憶を
今に伝える貴重な建物。
街に残る古き佳き文化を訪ねる拠点として
また世界に直結したターミナルとして、今なお親しまれている。
あなたも、なんばアート散策へと出かけてみては。



南海電鉄

歴史をひも解けば、
なんばはもつと面白くなる。

さりげなく佇むビルだが、じつは文化財クラスの貴重な建造物。

高島屋東別館



変わりゆく日本橋・でんでんタウンの一角に、開
ミナミの歴史を物言わず物語る。高島屋東別館

店当時と変わらぬ姿を今に留め、
は、まさに文化の生き証人である。

なんばには、古き佳き文化の香りが今も残る場所がある。たとえば堺筋。大正時代には大阪を南北に結ぶメインストリートとして栄え、市電が走り、4店もの百貨店が並ぶ光景は「百貨店通り」とも呼ばれた。今では当時の面影はほとんどないが、なんばには華やかな時代の姿を今に伝える洋風建築が残されているのである。また、江戸時代に隆盛をきわめた上方の文化を知る美術館や、民芸品ばかりを集めた珍しい博物館なども点在。時代背景や文化のなりたちを知ったうえで訪れると、なんばの街歩きは、もっともっと楽しくなることだろう。

表紙の写真：南海ビル
鉄道省に勤めていた建築家、久野節により1933年に完成。
昭和初期を代表する近代建築と称されている。

かつて「百貨店通り」と呼ばれた堺筋。
その名残は、唯一なんばにある。

明 治時代、市電開通に伴って早くから整備された堺筋は、多くの洋風建築が建ち並ぶ華やかなメインストリートだった。

財クラスのアキテクトなのである。

しかも、昭和四一年に松坂屋が開店して以来、内部も外部もほとんど手を加えられず、当時そのまの姿を残している点に注目したい。専門家たちも、建物の文化的価値は非常に高いと口を揃え、なんばの歴史文化をひも解くうえで貴重な建造物となっている。今にして思えば、このビルを芸術文化に造詣の深い高島屋が受け継いだことで、現在に戦後の佇まいを残すに至ったのだろう。

◀天井には大正レトロな雰囲気を醸し出すライト。

▼ギリシャの花アカンサスをモチーフとした文様は建物の至るところで見られる。



◀大理石が贅沢に使われた館内は当時の繁栄を想像させる。

時流につれて、北は北浜の三越・備後町の白木屋、長堀橋の高島屋、そして南には日本橋の松坂屋といった百貨店が拠点を構え、人々で賑わう堺筋はいつしか「百貨店通り」と呼ばれるまでに発展した。

しかし時代とともにメインストリートは御堂筋へと移り、百貨店も次第に堺筋から離れていくことに。そうした中、唯一残ったのが一九六六年に撤退した旧松坂屋の建物、今の「高島屋東別館」である。百貨店通りと呼ばれた華やかな時代の趣を見せてくれる建物は、今やなんばにのみ、その姿を残しているのである。

東洋一と称された百貨店の趣を、
そのまま今に伝える東別館。

旧 松坂屋が堺筋に完成を見たのが昭和十二年。設計を担当したのは東海の辰野金吾ともいわれた建築家鈴木禎次で、竣工

当時は「東洋一の百貨店」と称されるなど、戦前の百貨店建築の粋が結集された建物である。外観はルネサンス様式を基調としており、アーチ型のアーケードが連なる。内装には大理石が惜しみなく使われ、壁面、梁型、手摺、腰壁などにはアール・デコ調の見事な装飾が施されている。まさに文化



高島屋史料館

創業から現在に至る

高島屋の物語にふれる。

昭和

和四五年、株式会社設立五〇周年記念事業の一環として設立された高島屋史料館には、芸術価値の優れた品が多く収蔵されている。

常設展示には主に高島屋の歴史資料を展示。年表や当時の写真・マスコミキャラクターのローズちゃんなどが並び、見えて楽しい。特別展示は三月ごとにテーマを変えて開催され、タイミングが良ければ竹内栖鳳や上村松篁・梅原龍三郎をはじめ日本を代表する高名な作家たちの美術品を鑑賞することもできる。しかもこれらはすべて無料で見られるのだ。高島屋の歴史はもちろん、日本の文化史・芸術史を俯瞰する意味で貴重な史料館だといえるだろう。

一八〇年の歴史の中で自然に集まったあたたかい作品たち。

ここに、高島屋らしいエピソードがある。明治時代、都が東京に移ったことで仕事が減り

つづった京都画壇に対し美術染織品の下絵を依頼したのだという。芸術文化への深い理解を示し、創作活動を支援続けた姿勢への感謝からさまざまな作品が寄贈されたことが、高島屋史料館にそうそうたる美術品が集った背景としてあるのだという。

また事業に関連したいわば高島屋のためだけに制作された美術品も数多く残る。美術染織品を作る際の原画となる下絵もそのひとつ。高島屋の歴史を語る貴重な史料として、今なお大切に保管されている。また、下絵はかつて高島屋内に開設していた画工室で描かれたものだが、そこには竹内栖鳳・都路華香といった日本画の巨匠が出動していた記録も。作家たちと良い関係を築いてきたことを感じさせてくれる。

このように史料館に所蔵されている作品は、高島屋が芸術文化に関わる中で自然と集まってきたものが中心となっている。そのためテーマにとらわれない多様な作品にふれることができる。あたたかいコレクションになっている。

史料館を訪れた際は、ただ観るだけでなく、史料館のスタッフに作品の背景を尋ねてみるのもいい。より深く芸術鑑賞を楽しめると同時に、歴史に秘められた物語を読みとることができるよう。



史料館の中井さん。豊富な知識と気さくな対応で作品を紹介してくれる。



2万点もの芸術品・史料が無料で楽しめるミナミの一大ミュージアム。東別館を訪れる際は、こちらにもぜひ立ち寄りたい。

「外部に倦怠が漲る」^{けんたい みなぎ} 常
世界的な建築家、ル・コルビュジエによるタペストリー。1955年に東京高島屋で開かれたモダンリビングを提案する展覧会にて発表。



「平櫛田中 大黒天像」^{ひらくし だんちゅう} 常
(有徳福来尊像) 木造

彫刻家・平櫛田中の作。5年の歳月をかけて105歳の時に完成したという。加藤清正公が熊本城入城の折に手植えた櫛で作られたとされ、その背には作家の手形が残されている。

高島屋 COLLECTION

2万点あまりの美術品や史料は意匠もさまざまだが、美術的価値が高い作品が数多い。今回はその中から代表的な作品をご紹介します。

常…常設展示
特…特別展示

「ローズちゃん人形」^{ローズちゃん} 常
マスコットキャラクターのローズちゃんは、キャンペーンなど行事ごとに衣装を変えて登場。写真の「地球を抱えたローズちゃん」は環境がテーマになっているのだとか。



随所に見どころが 散りばめられている東別館

東別館には普段見ることのできない魅力もいっぱい。ここではその一部を紹介しよう。屋上には開店当時営業していたプールの跡が、地下には地下鉄の駅を造る計画が途中まで進んでいたことをうかがわせる通路がそれぞれ現存している。また、かつて大阪タカシマヤの食堂に飾られていた岡本太郎の壁画なども保管されている。詳細はまだ決定していないが、こちらは近く移設される可能性もあるのだとか。

※屋上や地下には、通常立ち入ることはできません。
※お問い合わせは、06-6632-9102まで。



「アレタ立に」^{アレタ} 特
軽妙洒落な描写を得意とした、京都画壇を代表する日本画家・竹内栖鳳の名作。昭和55年には記念切手として発売された。



「桜島」^{桜島} 特
華やかで力強いタッチが特徴的な梅原龍三郎の作品。桜島のもつ雄大なスケールに感銘を受け制作したといわれている。

高島屋東別館・高島屋史料館 MAP P.12

浪速区日本橋3-5-25 ☎06-6632-9102 開10:00〜17:00 休水曜、日曜、年末年始、展示替日

日本工芸館



城郭のような風貌を見せる建物は日本でも珍しい、民芸品ばかりを集めた博物館。無名の工人によって作られた名品、民芸をいまに伝える日本工芸館に迫る。

暮らしの中で育まれた民芸は、人々の息づかいを感じさせる。

民芸品は美術工芸品とは違い、日常生活への実用性を求められる。しかしながら、その姿には飾らない美があり、また暮らしの中で育まれたものであるため、特有のエピソードも数多い。たとえば「種子島焼」は、島内でのみ使われてきたため近年まで存在を知られていなかった焼物だが、粗い土で作られるすしりとした量感は、素朴でたくましい島の生活を想像させてくれる。また、「みんさー織」と呼ばれる織物には「サイロロ」という「五」と「四」の文様が順繰りに織られている。これには「いつ（五）の世（四）までも末永く」という愛する男性に対する女性の想いがこめられているという。館内には、大きさも形もさまざまな民芸品がずらりと並び、それらの時代背景を知りながら、また民芸を愛したふたりの気持ちに思いを馳せながら鑑賞するもの面白い。



▲屋上展示の工芸品は触ることができる。

日本工芸館 MAP | P.13
浪速区難波中3-7-6
☎06-6641-6309
開10:00～17:00(入館は16:30まで)
休月曜・第2火曜・年末年始・展示替期間
入館料/大人500円、
高校・大学生300円、小学・中学生150円

民芸を愛したふたりが築いた、米倉と大阪城を表す斬新な意匠。

昭

和五年、民芸品を愛したスエヒロオナーの三宅忠一が、その素晴らしさを広めるため堂島の米倉を工芸館として開館。昭和三十五年、十周年の記念事業として現在の場所へと移るにあたり、建築家・浦辺鎮太郎

に設計を依頼した。倉敷で育ち、倉敷国際ホテルや倉敷アイビースクエアなど地域に根付いた建築意匠を手がけてきた浦辺が考えたのは、堂島の米倉と大阪城をモチーフとした、大阪ならではの建物だった。その佇まいは、城郭を思わせる外観とコクリート打ちっばなしの内装という斬新な意匠に仕上がり、開館当時はもちろん現在でも注目を集めている。

なんばアートトリップ

創る？観る？ミナミ芸術めぐり

体験 サクラアートサロン 難波ルーム

幅広い講座や一日体験コースではじめての人も安心の絵画教室。



(上) 子どもから仕事帰りの社会人、ご年配と、幅広い人が通うのも魅力のひとつ。
(下) 画材販売や専用ロッカーもあり、手ぶらで気楽に通えるのも大きなポイントだ。

サクラアートサロン

難波ルーム MAP | P.13

浪速区難波中1-10-4南海野村ビル11階
☎06-6648-0300
回教室によって異なる
休年末年始、ゴールデンウィークお盆期間中

※各講座についての詳しい内容についてはお問い合わせください。無料でパンフレットを送付いたします。

本冊子をご持参の方に限り、入会金5,250円を半額割引させていただきます(6月末まで)



体験 上方浮世絵館

体感すればますます奥が深い。大阪伝統の文化・上方浮世絵を満喫する。



(上) 手順を分かりやすく説明してくれるので、はじめてでも安心。制作作品は、もちろん持ち帰りできる。
(下) 館内を彩るさまざまな上方浮世絵。制作体験後は、その精巧さや趣がより感じられて楽しい。

江戸時代に流行した伝統ある上方浮世絵の制作体験ができる美術館。たとえば四色の版木を使ってポストカードを作る四色体験コースでは手軽に浮世絵の奥深さや楽しさが味わえ、浮世絵ができるまでの過程を学ぶことができる。試し刷りができるのもうれしい。家族や友だちといっしょに、大阪上方文化を楽しんでみては。

上方浮世絵館

MAP | P.14
中央区難波1-6-4
☎06-6211-0303
開11:00～18:00(入館は17:30)
休月曜(祝日・休日の場合は翌日)
入館料/大人500円、小・中学生300円

浮世絵摺り4色体験コース

1名500円(3名以上から申込受付)
※3日前までに予約必要。入館料別途。
※別途、本格浮世絵制作体験コースもあります。
くわしくはお問い合わせください。



体験編

なんばで
オペラ体験

パークスシネマ METライブビューイング

120年以上の歴史をもつニューヨーク・メトロポリタン歌劇場(MET)で
上演されたオペラを、映画館で上映する「METライブビューイング」。
たまにはオペラをなんばで気軽に楽しむのはいかが。



©2009 The Metropolitan Opera

◀写真は「ハムレット」の1シーン。
名だたるオペラ作品が定期的に上映されるので、
何度でも足を運びたい。

▼上映作品をゆったりと満喫できる広い館内。また、
専用の売店やカッパシートなど、設備がより充実して
いるプレミアムシアターもある。



本場ニューヨークオペラの
魅力をなんばで味わえる。

映画館でオペラを楽しむの新しい常識を生み出したのが、METライブビューイングである。
「なんばパークスシネマ」では、オペラの本場・METで上演された舞台をスクリーンに再現。デジタル高画質による迫力の大画面とダイナミックなサウンド、本場さながらの臨場感が楽しめる。しかも上映されるのは最新シーズンのものばかり。ニューヨークオペラの公演がなんばにしながら気軽に満喫できる。

途中休憩の時間に、舞台裏の風景や出演者のコメントなどライブビューイングならではのメイキング映像が流れるのも魅力のひとつ。舞台進行や裏方さんの作業も見ることができ、オペラ好きはもちろんはじめての人にとっても親しみやすく、オペラの世界を存分に楽しめるのがうれしい。

METライブビューイングが上映される映画館は日本ではまだ数少なく、大阪ではなんばのパークスシネマだけ。もしかしたら「オペラの聖地」といえば「なんば」なんて日も近いかもしれない。



なんばパークスシネマ

MAP | P.12-13

浪速区難波中2-10-70

なんばパークス 8F

☎06-6643-3215

開10:00~24:00 因無休

上映時間 毎夕18:30~(1回のみの上映)

料金 1作品3,500円、

シーズン回数券9,000円(1回鑑賞券3枚綴り)



昔ながらの日本家屋の趣を活かした
ギャラリーは海外のアーティストからの
人気も高く、出展希望も増えている。

GALLERY AMI & KANOKO MAP | P.14

中央区千日前1-2-6

☎06-6214-2595

入場無料

開平日12:00~19:30 土曜12:00~16:00

開日曜・4/26~5/8(GW休廊)・8月中(夏期休み)

<http://www.ami-kanoko.com/>

二階の展示スペースは
和室。座ってじっくりと
芸術鑑賞ができるのが
うれしい。



鑑賞
GALLERY
AMI & KANOKO

国や表現のジャンルを越えたアートが
楽しめる。作品は「味見」すること。

一階二階は国内外で活躍するアーティストたちの
展示スペース。三階は絵画や書道の教室となっている
「和風ギャラリー」。絵画から工芸、ビデオアートなど幅
広い展示が行われている。ギャラリーゆかりの作家が手
がけた一点ものの美術品も販売しており、「味見」とい
う作品のレンタルも実施。自分好みのアーティストや作
品を見つけに足しげく通う中で、作家やアート好きの
人たちとの交流が生まれるかも。



週ごとに入れ替わる作品
を見に、毎週足を運ぶ人
もいるのだとか。

悪くない。
帰りに買い物ついで
にギャラリーをはし
ごする、というのも
いい。

鑑賞
ギャラリー香(KAORI)

カフェまでついたギャラリーで
週ごとに替わるアートを楽しむ。

道頓堀沿い、松竹座の前という気軽に立地がうれ
しい五階建てギャラリー。一階から四階までが展示
スペースになっており、週ごとに展示作品が入れ替わ
るので、毎週さまざまなアーティストの作品を見ることが
できる。また五階にはカフェが入り、さらに御堂筋を
挟んだ西側には「ギャラリー御堂筋」という姉妹
ギャラリーも。仕事

ギャラリー香(KAORI)

MAP | P.14

中央区道頓堀1-10-7

☎06-6212-7750

開11:00~19:00

開水曜

入場無料



ビル5階にある「café Bon」。
ジャズが流れる店内には絵
画やオシャレなインテリアも飾
られ、憩いのひとときを演出し
てくれる。

創る？観る？ミナミ芸術めぐり
なんばアートトリップ

鑑賞編

南海なんばの玄関口は
世界につながるターミナルでもある。



新生なんばの感性交差点

なんばガラリア

高さ20m、広さ1100㎡。
開放感たっぷりの吹き抜け空間。

ガラリアとはイタリア語で「ガラス張りの屋根を持つ大型の歩行者空間」を表す。昨年十月にオープンした「なんばガラリア」は、ヨロロツバの駅舎を思わせるおしゃれな設計・デザインで、まさに新しいなんばを象徴するスポットだ。とくに注目されているのが、そのオープンな構造である。

地下一階から地上八階まで、ガラス張りの天井から光が射し込む吹き抜け空間は、明るく開放的な印象を与える。また高島屋やなんばパークス、なんばCITYなどのショッピングモールやカフェ、南海なんば駅、スイスホテルなどが、すべてここ「なんばガラリア」から通じているアクセスビリティの高さも魅力だ。なんばの玄関口としてはもちろん、関空直結で世界につながる国際ターミナルとして、より開かれた空間になっている。



新生なんばの象徴としてふさわしい開放的で美しい空間へと生まれ変わった。

地下の「ガラリアコート」では
コンサートなどイベントも開催。

かつて「ロケット広場」として親しまれてきた地下スペースは「ガラリアコート」へとその姿を変えた。ここでは音楽やアートに関するさまざまなイベントが行われている。そのひとつが「ガラリアコンサート」。オープニングの日には大阪フィルハーモニー交響楽団による盛大なセレモニーも開かれた。また「ガラリアアート」では世界各国のガラリアを紹介する写真展示など、アートスペースとしての活用も。今後さらなるイベントを予定しておりなんばのエンタランス



いろいろなショップが揃うなど機能面も充実。待ち合わせとしても使いやすい。

としてだけでなく、ガラリアそのものの人の集まる場所になりそうだ。

また、なんばガラリアにはカフェやスイーツなどのショップもあり、バラエティに富んだ街・なんばを集約したような楽しい機能が充実しているところも見逃せない。



なんばガラリア MAP | P.12・13・14
中央区難波5-1-60南海ターミナルビル1階

あらゆる人に役立つ、あらゆる情報が手に入る。

? 総合インフォメーションセンターなんば

南海電鉄グループが運営する「インフォメーションセンター」「トラベルサロン」と大阪市による「大阪市観光案内所」がひとつに。大阪市初の官民共同インフォメーションセンターとして誕生した。一般的な大阪市内の観光情報からターミナル内のスポット紹介、国内外ツアーの案内などさまざまなサービスが、一ヶ所で受けられ、これまで以上にスムーズな情報入手が可能になったと評判も上々のようだ。

サービスカウンターでは、英語はもちろん韓国語、中国語にも対応可能。さらには国内初となる「多方向対応テレビ電話システム」の導入により、手話によるリアルタイムでの通訳が可能となっている。一般の方はもちろん外国人観光客や身体の不自由な方など、あらゆる人にとって便利で使いやすいインフォメーションセンターとなっているのがうれしい。



本誌をはじめ、南海沿線や市内のスポットを紹介したパンフレット等も設置されています。

総合インフォメーションセンターなんば
開9:00～20:00 休12月31日～1月3日



なんば文化講座 今宮村の眺望閣(五階百貨店)/現 日本橋商店会

1888年、当時の今宮村に「眺望閣」と呼ばれる五層造りの建物が完成。他の建物を圧倒する高さだった眺望閣からは遠く淡路島まで見えたといわれる。敷地内には温泉や茶店・露店が広がり、多くの観光客が訪れた。「五層」の建物はいつしか「五階」と呼ばれ、「五階に行けばなんでも揃う」という噂まで広まり、人々に賑わう様子を「百貨店」に見立てて「五階百貨店」と呼ばれるようになったという。五階でも百貨店でもないのに五階百貨店、不思議な名前の由来はここにある。

現在は眺望閣の姿はないが、「五階」という地名とさまざまな商品が並ぶ光景は、今でも受け継がれている。



なんば文化めぐり

昔ながらの老舗や他にはないお店が集うのもなんばの魅力。街歩きがてら訪ねてみよう。



▼材料にこだわった飛鳥自慢の自家製ビーフンチュウ。ビーフンチュウセット(ライス・サラダ付き) 750円

▲絵画や植物、インテリアなどに彩られたオシャレな店内。

飛鳥

MAP | P.13

レトロな洋風の建物は、都会のまん中の憩いスペース。

レンガ造りの様式と店内に流れるクラシックで、優雅なひとときを演出する飛鳥。料理はすべて自家製メニューで、どこかホッとする味わいだ。また、店内に飾られている絵画は、併設の画廊を愛用している作家の作品。画廊で展示会が行われているときは、そちらもぜひ覗いてほしい。

浪速区難波中1-17-13 ☎06-6641-0286

※画廊の開催時期については、お問い合わせください。

図7:30~18:00 困日曜、年末年始、お盆期間中

POSTER GALLERY FANFAN

MAP | P.12

取り扱い枚数は関西でもトップクラス。

お気に入りの一枚が見つかるかも。

映画や音楽、アート系から、今では入手困難なポスターまでがずらりと並ぶ店内はまさにギャラリーの名にふさわしい。目当ての一枚を求めて、遠路はるばるやってくるお客さんもいるという。インテリアにプレゼントに、お気に入りの一枚を見つけたら嬉しい。中央区難波千日前1-9 ☎06-6643-4060

図12:00~18:00 困水曜



ムーディーな店内にはさまざまなジャンルのポスターが揃う。ポスター 480円~



▼平安期から現在の刀匠のものまで、時代も銘もさまざまな刀剣がこの店に集う。



▲高価なものだからこそ、実際に目で見て確かめたい逸品である。

吉井美術

MAP | P.12

刀剣を扱う古美術店で、日本伝統の美にふれる。

店内にある刀剣類は、店主に頼めば手にとって確かめさせてくれる。「張り詰めた空気の中で日本刀の美しさを味わってほしい」と語るように、写真や展示で観るのは違った、文字通り真剣な心持ちで鑑賞できる。もちろん刀剣以外の美術品売買も可能だ。

中央区日本橋2-7-1 ☎06-6631-2210 図10:00~18:00 困水曜

たる幸 後藤商店

MAP | P.12

木や竹など自然のぬくもりを

伝える手作りアイテムが揃う。

プロの職人御用達・千日前道具屋筋の一角で、木製・竹製のキッチン用具を中心に扱う。創業以来のおひつをはじめ弁当箱やざる、雑貨に至るまで、店に並ぶのは手作り自然のぬくもりが感じられる逸品ばかり。見た目も洒落ているので食卓のアクセントやプレゼントにもいい。

中央区難波千日前13-4 ☎06-6641-3540

図平日9:00~18:00 土日祝11:00~17:30 図第1・3・5日曜、年末年始、夏期休暇



◀適度に水分を吸収し、ごはんのおいしさを保つなど機能面もグッド。小判弁当(小) 5,040円

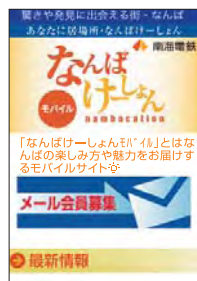




なんばの魅力がよくわかる、街歩きナビサイト。 なんばけーしょん「モバイル」

なんばの街の魅力を発信する街歩きガイド「なんばけーしょんMAP」。そのモバイル版がこの、なんばけーしょん「モバイル」です。コンテンツは街歩きガイド「なんばけーしょんMAP」の最新号で紹介している内容をメインに、「飲食」「ショッピング」「観光」などジャンル別にスポットを紹介しています。

お出かけの際に事前にチェックするもよし、街歩きをしながら自分の行きたい場所を探してみるもよし。使い方も楽しみ方も盛りだくさんです！



バックナンバーもCHECK!

驚きや不思議、感動がいっぱいのなんば。あなたのお気に入りスポットを見つけてください！

vol.1

インパクトたっぷりの意匠にびっくり
「うわっ!」なんば
法善寺界隈はミステリーが満載
「ええっ?」なんば
プロの道具やマニアなグッズが勢揃い
サイコー! なんば

vol.2

カフェもオブジェも不思議でいっぱい
なんばミステリールート巡り
食やアートなど街を彩る文化を楽しむ
なんばカルチャールート巡り

vol.3

おせちの材料がずらりと揃う大阪の台所へ
ゆく都市に、美食あり。
なんばの神社でひと味違う新年を
くぐる都市に、繁盛あり。

ただいまメール会員募集中!

下記アドレスに空メールをお送りいただくか、QRコードを読み取るとアクセスいただけます。

call@namba-c.jp

